

◆参加報告◆

研修会参加記

米田 恭子

昨年度から図書室担当となり、日赤図書室協議会総会研修会は2回目の参加となりました。私にとって昨年度と大きく違う点は、今年度は教育・研修委員会の協力委員として委員会や事前準備などに携わり、少しですが一歩前に進んで研修会に参加することができたことです。しかし、準備していた資料等に不備や不足はないかと、昨年度とは違う緊張感をもって参加することになりました。

研修会初日には定期総会が開催され、日赤図書室協議会が直面した図書室担当者の人事背景について、有資格者であっても雇用形態による協議会活動の制限や、年度途中で委員会を再編成しなければならなくなったことなど、切実な実情を知ることになりました。司書のなかでも病院図書には専門知識が求められ、一人前になるには最低でも10年は必要であることを伺い、皆さんの高い専門性と豊富な知識は、この一言に尽きると実感しました。私のように資格を持たない兼任担当者もいる中、司書の資格を持ち知識が備わったベテランの方々にご指導いただくことができる環境は、日赤図書室協議会の強みだと思います。協議会の必要性和強みを生かしたより充実性のある活動など、今後のあり方について深く

考える機会となりました。

研修会1日目は、日赤図書室協議会ホームページの会員コミュニティの使い方や文献相互貸借サービスのシステムやルールについて、疑問点を含め丁寧な内容で講義いただきました。また、各施設が様々な問題を抱えていることを知り、それが自分にとっても問題点であったことに気づくこともあり、非常に勉強になりました。「会員コミュニティを使うのも、問題解決の糸口になる。」とアドバイスをいただき、協議会ならではの連携に心強さを感じることができました。

2日目の公開講座では、講義内容も身近に感じるものから専門性の高いものまで様々であり、経験の浅い私には講義についていくことも難しい場面が多々ありました。しかし学ぶことも多く、仁上幸治先生の講義のなかで「自分の弱みを強みに言い換える」と、マイナス要素ばかりを捉えずプラスとなるように考え方を变えること、まずは行動してみることを拝聴し、図書業務のみならず、私自身の様々な場面でヒントにし活用していきたいと思いました。

「図書室を利用している人の立場になり、思いやりをもって努力をすること」と話された藤田菜穂子先生の講義は、社会人として当然の行動が図書担当者としても求められていることを知り、信頼関係を築く必要性、また、

YONEDA Yasuko
葛飾赤十字産院

その行動に対するマナーが大事なことだと改めて勉強になりました。

各図書室の規模や担当者の事情も様々である以上、講義内容についてすべての参加者が満足するのは難しいと思います。本来ならば業務歴の浅い担当者向けの研修会が別にあるとよいと思いますが、ハイレベルの講義に触れるのも業務を知る機会にもなります。2日

間の研修会で学んだことを当院の図書室に置き換えて、まずは行動し、今後も努力していきたいと思いました。

最後になりましたが、他施設の方々と交流することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いたします。

